

2021 年は波乱の幕開けも、新たな発展につなげる一年に！

2021 年は波乱の幕開けとなった。2020 年 12 月 31 日には、新型コロナウイルスの新規感染者数が全国で 4,521 人にのぼり、東京都の 1,337 人など 6 都県で過去最多を更新しており、感染爆発が懸念される状況となった。

こうしたことを受けて、1 月 2 日に東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県各知事が政府に緊急事態宣言を要請、4 日には菅首相が同宣言の検討を発表するなど、新型コロナウイルスにともなう事態は風雲急を告げている。

2020 年の東京株式市場では、大規模な金融緩和や各国政府の経済対策を下支えとしつつ、ワクチンの普及による景気回復への期待も加わり、年末には日経平均株価が 31 年ぶりの水準まで上昇していた。

そして 2021 年の大発会が開かれた 4 日の株式相場は、昨年末の流れを受け上昇して始まった。しかし、首都圏の 1 都 3 県を対象に緊急事態宣言の発出が検討されるなど、経済活動に影響が出ることへの警戒感から株価は一時 400 円あまり値下がりした。その後、ワクチン普及への期待などから下げ幅は縮小したが、厳しい滑り出しとなった。

今年の干支は丑であるが、相場格言では「丑はつまずき」とされる。つまり、株式相場は一段落するということになる。ただし、過去の丑年の株価は上昇と下降が半々であり、直近の 2009 年（リーマン・ショックの翌年）は 16.6% 上昇していた。

「丑」という漢字には、もともと「からむ」という意味があり、芽が種子の中に生じてまだ伸びることができない状態を表すという（『漢書』律曆志）。そしてこれを覚えやすくするために「牛」の意味が与えられた。牛は古くから食牛や乳牛、耕牛として酪農や農業などで人びとを助けてくれる存在として重要な生き物とされており、大変な農業を地道に最後まで手伝ってくれる様子から、丑年は「我慢や耐える」「発展する前触れ」「これから芽が出る」を表す年になるとも言われる。

2021 年は新型コロナショックの影響に対して我慢し耐える年となるかもしれないが、地道に突き進むことで、将来の新たな発展につなげる年にしたいところである。

2021 年は、新型コロナウイルスの感染状況が国内景気を大きく左右する一年になると見込まれます。

こうした環境のなかで、TDB 景気動向調査はより一層迅速で的確な発表を行ってまいります。また、TDB 景気動向オンラインや SNS などを通じた情報発信の強化に加え、3 月に公表する TDB 景気白書 2021 年版では、国内景気分析・予測や最新の経済トピック、新型コロナ特集など、これまで以上に内容を充実させていきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

(撞球者)

当コラムの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。